

野生鳥獣を寄せつけない営農管理

～ その1 集落周辺の環境整備 ～

1 農地をエサ場にしない取組

収穫しない野菜や果樹、間引いた株は、農地に残さず、簡単にとられないようにネットで囲んだり、埋設など適切に処理する。

被害を受けた農作物も、農地にそのまま放置せず、ネット防護や土に埋めるなど適切に処理する。

家庭から出た生ゴミ、クズ野菜を堆肥がわりに農地や庭先に放置しないで、コンポストなどを利用して堆肥化する。ただし、ツキノワグマの生息地付近では、この方法は避ける。

稲刈り後の秋耕起により、秋～冬のヒコバエや雑草の発生を抑える。

林縁部の水田には、冬にシカやサルを引き寄せやすいレンゲ、クローバーを播種しない。また、林縁部の果樹園の下草もシカのよい餌となるため、特に冬～春にかけて除草する。



稲刈り跡の水田に放置されたクズ野菜



稲刈り後にヒコバエが生えた水田



良く管理された事例: 稲刈り後に耕起され、草がない水田



シカやサル の餌となる林縁部の果樹園(ウメ林)の下草

2 放置された果樹を伐採もしくは管理する

所有者が不明、あるいは誰も収穫せず放置されたカキ、クリ、クワ、グミ、ビワなどの果樹は、地域で合意の上できるだけ伐採する。

農家や集落だけで収穫できない果樹は、ボランティアを活用して剪定・収穫する方法もある。また、収穫物をボランティアに持ち帰ってもらうことによって、農家や地域だけでは消費し切れない収穫物の有効利用も兼ねることができる。

3 人家やお墓の周辺に鳥獣の餌となるものを放置しない

果物、ジュース、菓子などのお墓の供え物は、お参りが終わったら持ち帰る。

軒下の干柿、干芋、凍み大根など人家周辺で餌となりそうな食物は、野生獣の手が届かないように管理する(ネットに入れて干すなど)。

野菜などの無人直売所でも、簡単に取りられない工夫をする。

4 道路ののり面や畦などの雑草を管理する

農道や林道のり面のような共有地に生える雑草も、シカのよい餌となるため、除草する。

シカの餌やイノシシの隠れ場所となりやすい林縁部の草地は、定期的に草刈する。シートで覆うことで、草刈を省力化する方法もある。



ボランティアを使ったカキの収穫



林縁部の斜面をシートで覆う

～ その2 ほ場(作物)の管理～

1 防護柵内は野生獣から見えない側に実らせる

サルは、目で直接確認できる農作物に被害をおよぼすことが多い。そこで、トマトやイチゴなどは、防護柵の外周から見えにくい側に果実を実らせる（野菜苗は実の成る側をほ場の内側に向けて揃えて植える）ことで、被害が軽減できる。

2 ツル性の農作物は畑の周囲でなく中央部に植える

自家用菜園など多品目で栽培している畑では、インゲン、ソラマメ、エンドウなどのツルを伸ばす野菜を、畑の周囲ではなく中央部に植える。畑の周囲に植えた場合は、防護柵で囲ってもツルが柵外に伸びるため、食害されやすい。

3 野生獣の掘り返しから守りやすい栽培方法

サツマイモやジャガイモは竹や樹脂製のトリカルネット（編んでいない、抽出成形によるプラスチックネット）をマルチングすると、サルによる引き抜き被害が防止できる。地表に竹を少し隙間を空けて並べて固定したり、トリカルネットをマルチングし、資材の隙間からサツマイモの挿し苗をしたり、資材の下にジャガイモの種芋を植える。

4 カボチャやスイカの立体的な栽培

カボチャは、ネットに沿わせて立体的に栽培する。スイカは、ネットに沿ってツルを誘引し、受け棚の高さに開花した雌花を育て果実を成らす。いずれの方法も、また狭い用地でも畑外にツルがはみ出すことなく栽培でき、防護柵で囲みやすくなる。

5 果樹の低面ネット栽培

農業用パイプで、高さ1 mほど（作業しやすい高さ）の骨組みを作る。そして、水平もしくはトンネル状に張ったネットに果樹の枝を這わせて栽培する。ウメ、カキ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ、イチジクなどに活用できる。果樹を低く仕立てることで、防護柵で囲いやすくなる。また、高い所に登る習性があるサルにとって、侵入や逃走経路となりにくい。



スイカの受け棚栽培



サツマイモの竹マルチ栽培



カキの低面ネット栽培



キウイフルーツの低面ネット栽培

* 上記の写真は奈良県果樹振興センター内の猿害防止展示コーナーの実例

～ その3 休耕地や耕作放棄地の管理 ～

休耕地や耕作放棄地では、野生鳥獣の餌場や隠れ家にならないように、定期的に雑草を刈るか、耕耘をして雑草の生育を抑える。

人手だけでは十分な草刈りができない休耕地や耕作放棄地は、家畜（牛や羊など）を放牧したり、防護柵で囲んだりする方法もある。

休耕地や耕作放棄地がモザイク状に散らばっていると野生獣が進出しやすくなるため、農地の利用集積を図り、草刈りや牛の放牧などで管理する方法もある。



草刈の行き届いた耕作放棄地



管理できない耕作放棄地を防護柵で囲う



共同による草刈作業



羊の放牧

記載内容は「野生鳥獣被害防止マニュアル(イノシシ、シカ、サル) - 実践編 - 」(平成19年3月農林水産省生産局発行)から引用しております。